

9月は
防災月間

JR明峰駅前、正蓮寺町に設置しています。



▲災害対応型自動販売機

緊急時には電光掲示板に災害情報が流れたり、飲料を無料で提供したりします。

□車の中では
ハザードランプを点灯して徐々に減速。道路左側に止めてエンジンを切り、揺れが収まるまで待機します。

□スーパー・コンビニでは
陳列棚から離れ、踊り場や柱の近くへ移動します。また、買い物かごやかばんを被ってその場にしゃがみ、安全を確保します。

□人の多い場所では
公園など、できるだけ広い場所に避難するか、耐震性の高い、比較的新しい鉄筋コンクリートの建物に逃げ込みます。

外出編

その場に合った身の安全を確保できるよう、外出時の行動も確認しておきましょう。

特集

グラッときたら
わが家の地震対策

全国で発生する地震。皆さんの備えは万全ですか？
勤務中や外出時、家で一人のときに地震が発生しても落ち着いて行動できるように、もしもに備えた地震対策を家族みんなでイメージしておくことが大切です。

問い合わせ

防災安全センター ☎24・8150

自分自身や家族の命と
財産を守るために

地震、洪水、大雪、台風など、全国的に自然災害が相次いでいます。災害は時として、想像を超える力で襲ってきます。

防災対策で大切なことは、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」と言われています。しかし、南海トラフ地震のような大規模災害が発生した場合、「公助」の限界について指摘されています。

いま一度、自分自身で命を守るための備えや、地域でできる取り組みについて、考えてみましょう。

自宅編

地震発生時の行動手順をイメージしておきましょう。
グラッときたら「3・3・3」の心構え

地震がきた瞬間、どうする!?

STEP1 3秒



すぐに物が「落ちてこない・倒れてこない・移動しない」場所に移動し、自分自身の命を守ることを最優先に考えて行動してください。

揺れが収まったら、何をすればいい?

STEP2 3分

散乱したガラスなどを踏まないよう靴を履き、テレビなどから災害情報を確認します。火の始末は、揺れが収まったあとに慌てずに行いましょう。



安全を確保したら、次の行動へ

STEP3 3時間

隣近所で助け合い、声を掛け合って避難しましょう。余震に注意し、屋外では瓦の落下、ブロック塀の崩壊などの可能性がある場所には近づかないこと。



企業で

当事者意識を持った訓練を

各専門店で非常用持ち出し袋とヘルメットを常備しています。また、防災意識向上のため、最善の避難経路を各班の地区隊長が考えるなど、実践を意識した訓練を実施しています。



イオンモール新小松オペレーション担当 佐々木 晴夏さん

家庭で

日頃の備蓄と防災グッズの準備を



水だけでご飯ができる非常食もあります



防災意識向上委員会 藤本 さおりさん

ちよつと多めに食材を買い置きして食べた分を買い足す「ローリングストック」を実践すれば、備蓄ゼロを防げます。また、大人用とは別に、子供だけの防災グッズを用意し、子供だけで避難する事態にも備えておきましょう。



家族でチェック!
命を守る情報・ルール

□わが家の防災ファイル

災害時の避難場所の確認や避難方法などを家族で話し合う際の、基本的な内容をまとめた冊子です。家の中の目に付きやすい場所に置いて活用しましょう。



2019年1月に全戸配布、転入時に配布

□「感震ブレイカー」購入費用の一部を補助

設定値以上の揺れを感知したときに、ブレイカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具「感震ブレイカー」を設置しましょう。

消防本部地域ほうさい課 ☎20・2709

□市からの防災情報

- ・ 防災行政無線
 - ・ 市ホームページ「防災情報」
 - ・ 消防本部災害メール
 - ・ Yahoo! 防災速報
- ヤフーサイト上に小松市の防災情報の掲載や、「Yahoo! 防災速報」アプリを通じて緊急情報や様々なリスク情報が配信されるようになりました。

NEW



9月は
防災月間

数字で見る火災発生状況

火災発生件数

34件 平成21年 → 16件 平成30年

【主な火災原因】(平成30年)

- 1位 たばこの不始末
- 2位 放火・放火の疑い
- 3位 電灯・電話等の配線からの発火

稚松はつらつ協議会

稚松校下では、「結ネット」というスマートフォン向け電子回覧板アプリの導入を予定しています。地域のイベントや市からのお知らせを配信するほか、災害時の安否確認や、避難訓練でも活用できればと考えています。



稚松はつらつ協議会
マネージャー 今森達也さん

数字で見る自主防災組織

市内の全町内において、自主防災組織が結成されています。市では、毎年各町の活動を5段階で評価し、S・Aランクの町内を増やすことを目指しています。

S・Aランク町内数

96 (40%) 平成30年度 → 120 (50%) 令和元年度目標

地域の結束で安心、安全のまちへ

小松市女性防火クラブ 連合会

感震ブレーカー設置の呼び掛けや火災予防チラシの配布、町内会やこども園での紙芝居による防災意識の向上など、様々な活動を通して地域における防火・防災の普及啓発を進めています。昨年発足35周年を迎え、これからも地域の一番身近な存在として、みんなにやさしい安心安全なまちづくりに取り組めます。



小松市女性防火クラブ連合会
(左から)副会長 寺井 和子さん、会長 前川 弘子さん、副会長 中崎 くみ子さん



小松市校下女性協議会
会長 西田 頼子さん

地域の防災リーダーたち

防災士

災害発生直後における避難誘導、避難所開設などでリーダーシップを発揮するのが防災士の役割です。災害に備え、防災に関する講演を受講するなど、日々スキルアップに努めています。

避難所では、授乳や着替え場所の確保など、女性への配慮が不可欠です。女性だからこそ気付く視点もあり、今後女性の防災士が増えることを期待しています。



小松市校下女性協議会では、毎年防災教室を開催。昨年は、ポリ袋でできる災害食の作り方を実践しました。

地域でスクラム みんなで守る防災のまち

地域力 × 防災力

災害の規模が大きければ大きいほど、消防、警察などの公的な救援活動が十分に機能するまでには初期対応などを住民の皆さんの手災害への備えを進めましょう。

しみん救護員

しみん救護員は、災害時に応急手当のリーダー役を務めます。月津校下では、しみん救護員同士で切磋琢磨しながら応急手当の知識・技能向上に努めています。育児・家事などをしながらの活動ですが、自分が頑張ることで自然と地域の皆さんが応援してくれるおかげもあり、続けられています。

これからは、救護に役立つ知識を動画やSNSで発信することで、救急活動の輪を広げていきたいです。



月津校下しみん救護員
リーダー 亀田 奈々絵さん

多文化 防災チーム

昨年、しみん救護員と防災士による多文化防災チームを結成しました。メンバーは日本、ブラジル、中国、ウルグアイなどの出身者で構成されています。外国人向けの防災キャンプを通じて避難所生活の体験や避難場所の確認を行うなど、外国人にも防災意識を持ってもらう活動を続けています。



多文化防災チーム
リーダー 真田 里織さん
(ウルグアイ出身)



自主防災組織Sランク 吉竹町防災担当
(左から)高野 明美さん、雅豊さん

自主防災組織

自主防災組織は、地域住民が協力し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動する組織です。吉竹町では毎月勉強会を開き、町内の危険箇所をマップにまとめたり、防災意識調査を実施したりしています。また、毎年実践を意識した防災訓練を行うなど、地域一丸となって積極的な防災活動に取り組んでいます。

数字で見る小松の防災力

- 防災士
498人(女性137人)
165町内(町内配置割合67.1%)
- しみん救護員
509人(女性231人)
131町内(町内配置割合53.3%)
- 多文化防災チーム
18人(外国人を含む防災士・しみん救護員)
- 避難所運営協議会
18校下・地区 (平成31年3月31日時点)

◀防災キャンプでは、ダンボールでベッドやトイレを作るなど、避難生活で役立つ知恵を共有しました。